

東北地方太平洋沖地震のお見舞いと日本糖尿病学会の活動

日本糖尿病学会理事長 門脇 孝

2011年3月11日午後2時46分頃に発生した東北地方太平洋沖地震とその後の津波により東北地方を中心に、大震災2週間後の現時点で、すでに3万人を超える方々が死亡・行方不明となられ、50万人以上が被災者となられています。このたびの地震で尊い命を失われた多くの方々に深い哀悼の思いを捧げるとともに、ご家族やご友人を失われた皆様の悲痛、生活の場を失われた皆様の困難に対し、心よりお見舞いを申し上げます。

日本糖尿病学会は、大震災により困難な状況におられる糖尿病患者の方々のお力となれますよう、3月13日付で対策本部を設置して、この2週間可能な限りの活動を続けてきました(学会ホームページでも、活動の一部をご覧頂くことが出来ます)。戦後最大の災害に際し、日本糖尿病学会は、これからも、被災地の糖尿病患者の方々の生命や健康を守るために、最大限の力を結集して支援を行います。

被災地の糖尿病患者の方々、特にインスリンを必要とする患者の方々は、その入手が非常に困難な状況となっています。インスリンを必要とする糖尿病患者の方は、インスリン治療ができなくなると病状の急速な悪化につながり、特にインスリン分泌が枯渇・喪失していらっしゃる1型の患者の方では1-2日程度の短時間で生命の危険も生じ得ます。そこでまず、インスリンを必要としている方に、インスリンが一日でも早く手に入るように、被災地の先生方の多大な協力をいただきまして、この大震災で主治医と連絡が取れなくなった糖尿病患者の方々向けに、岩手、宮城、福島、茨城の各県と学会本部および各インスリンメーカーに、インスリン入手法等に関する相談窓口を設置し、3月14日、日本糖尿病学会のホームページ上に掲載しました。また、同じく大震災直後から糖尿病患者支援の活動に取り組まれている日本糖尿病協会の清野 裕理事長とご相談し、少しでも多くの被災された糖尿病患者の方々に情報が行き渡るよう、本学会の対策本部の活動と日本糖尿病協会の災害対策支援チームの活動を相互にホームページ上に紹介しております。この相談窓口をはじめとする学会・協会の活動はメディアでも広くとりあげられ、想像を超える多数の問い合わせがあり、岩手医科大学(岩手県)、東北大学(宮城県)、福島県立医科大学(福島県)、日立総合病院(茨城県)などの基幹病院や各地の糖尿病専門診療施設の糖尿病学会員の先生方には、最寄りのインスリンの入手先などの問い合わせに応じていただき、インスリンが入手できるように、全力をあげていただきました。

また、被災された患者の方々からの問い合わせに応じ、またそれらの方々の現在の病状を踏まえて、インスリンを被災地の患者に処方あるいは現物支給するにあたりましては、特に被災地の糖尿病学会員の先生方の昼夜を分かたぬ活動に深く感謝申しあげています。さらに、全国の医療機関から、被災地に支援に入っている医療チームの中で、糖尿病学会員の先生方が多数、献身的な活動をされていることに、深く敬意を表します。このような活動を支援すべく、この間、日本糖尿病学会では、1) 交通事情の悪化した被災地に必要なインスリン及び必要機材(注射針・消毒綿)がタイムリーに供給できるような輸送手段の確保、2) 各救護所・避難所等におけるインスリン及び必要機材の現物支給についての適正な規制緩和、について国や県の行政当局に一連の要請を行ってまいりました。また、インスリンの供給にあたりましては、各メーカーのご協力をいただきましてきました。

震災後、2週間たった現在、当初の予想をはるかに上回る甚大な被害状況に心を痛めますとともに、日本糖尿病学会では、インスリンや経口血糖降下薬が足りないために、生命や健康の危機に瀕している患者さんにできるだけ早くインスリンや経口薬を供給出来るように、引き続き最大限の努力を行います。今後も、長期にわたり大震災による困難な状況が続くと考えられる被災地の糖尿病患者の方々に対し、全国から、学会員である先生方やコメディカルの方々の様々な形でのご支援を是非ともお願いいたします。

折しも、第54回日本糖尿病学会年次学術集会在5月19～21日に羽田 勝計教授（旭川医科大学 内科学講座 病態代謝内科学分野）会長の下、札幌で開催が予定されています。このような困難な状況下ではありますが、この度の未曾有の大震災を踏まえ糖尿病と震災についての緊急パネルディスカッションを含め、糖尿病の医療や医療者の課題に深く切り込み、大震災からの復興支援に向け、被災地からの報告やディスカッションに基づいて、学会の具体的な支援内容を明確化するとともに、糖尿病患者の安全・安心・幸福とそれを支える糖尿病学の発展・明るい未来を希求する、真摯かつ濃い内容の学術集会として、出来ますれば、開催したいと願っています。しかし、現時点でも事態は非常に流動的であり、予断を許さず、学術集会の開催とその形式については決定次第ご連絡させていただきます。

このたびの大震災で被災された多くの方々に、あらためまして心からお見舞い申し上げますと共に、被災された糖尿病患者の方々の困難を思うと、心痛の念に堪えません。また、そのような患者の方々を直接、間接に支援して下さっている多くの学会員の皆様のご貢献とお気持ちに深く感謝いたします。日本糖尿病学会の使命は、学術活動や医療の実践により、糖尿病患者の生命と健康を守ることであり、糖尿病患者の安全・安心はその必須条件であります。それが、根本から踏みにじられ、脅かされるという、未曾有の事態に際し、日本糖尿病学会としての原点に立ち返って、共に考え、行動することを呼びかけます。

平成23年3月28日